

## 令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	キラル分子を光学活性体として得る革新的手法 DYASIN の開発
研究代表者	友岡 克彦 (九州大学・先導物質化学研究所・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究は、ラセミ化障壁のあまり大きくない動的キラル分子の特性を利用して、ラセミ化を伴う動的な不斉誘起によって光学活性体を得るものであり、光学活性ポリマーなどの外的キラル因子との相互作用を利用するという特徴がある。本研究では、得られた光学活性な動的キラル分子をさらに化学変換することによって、多様な静的キラル分子を光学活性体として得ることも目指している。</p> <hr/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>光学活性キラル分子の調製法として動的な不斉誘起を利用する点の独自性が高く、新分野を開く研究である。本研究の進展により、多様なキラル分子が光学活性体として簡単に入手可能になると期待される。</p>